



中村匡志 議員
(創政会)

問 市内の農業を守る
肥料高騰対策を

昨年末の一般質問で米価暴落と原油価格高騰の対策を求めたのに対し、種苗費と燃料費の助成制度を導入していただき感謝する。しかし、今年に入り肥料が高騰して農家経営に追い討ちをかけている。影響と対策、しらおか味彩センターの米買取拡大について伺う。

答 国や県の動向を
注視していく

農業者支援における国や県の動向を注視するとともに、市としても事業者支援の一環として、肥料コスト上昇分の支援について考えていく。

現在のしらおか味彩センターの状況では、買取量を増やすことは困難である。

問 市内に幼児の
自転車乗り場を

最近では子ども向け自転車の改良により、満2歳頃から補助輪付き自転車に乗っている。安心安全の観点から道路ではなく公園を乗り場とすべきだが、市内の公園では自転車の乗入れが一律に禁止されている。子育てのしやすさと安心安全の観点から対策を伺う。

答 総合運動公園中央通路の
利用を周知

補助輪付きの自転車等については、大人の立会いのもと、総合運動公園中央通路の利用を開放している。今後は、この場所は幼児が自転車を練習できる場であることを、看板等を設置して利用者に周知し、公園利用の拡充を図っていく。



さらに、下田公園（荒井新田）も
幼児の自転車練習に開放



渡辺聡一郎 議員
(新風の会)

問 まち全体の
バリアフリー推進を

現在のバリアフリーの取組は個々の施設等に限られ、まち全体の一体的な取組まで至っていない。歩車道の分離、歩道段差の解消、誘導設備等の充実に面的に取り組むことが必要だ。バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進計画を策定すべきではないか。

答 計画策定の必要性を
検討していく

バリアフリー及びユニバーサルデザインの取組については、障害福祉や街づくりなどの各分野の計画に基づき、適切に実施している。今後は、関連計画の見直しの過程で各種委員の意見を伺うなどして、計画策定の必要性を検討していく。

問 「使える」英語を
目指した英語教育を

これまでの英語教育では実際の会話で英語を使えるまで上達することは難しい。「話す事・聞く事」を養う英語教育が重要と考える。学校生活の中で英語だけで生活する時間を作る、または英語で過ごす学童保育所等、オールイングリッシュの環境作りができないか。

答 英語教育の推進と
充実を図る

グローバル化の進展により複数の言語によるコミュニケーション能力が重要となるため、ALTや英語専科指導教員を配置し、より実際に近い発音の英語学習を行っている。今後は実際に使える・話せる英語が身につくような英語教育の取組の研究に努めていく。

